

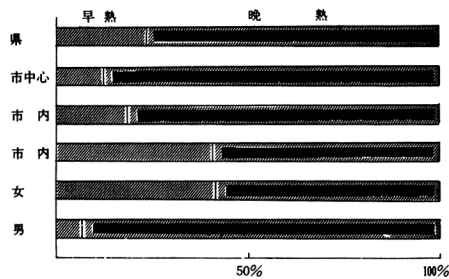
また、母親が職業を持っている場合の忘れ物の割合が、県全体の57パーセントと比べ、かなり低いのは、自主性が早めに培われるためだろうか。

(16) 性について

性について問題視していることを表現した保護者は、以外に少なかった。

問題視しているものの中で、「早熟を心配しているもの」「晩熟を心配しているもの」について県全体・地域別・男女別にみると、次の図49のようになる。

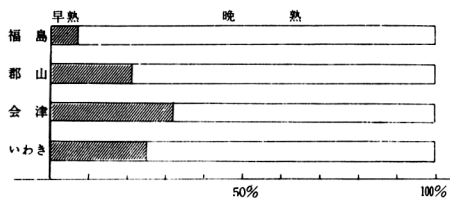
図49 性について



- 県全体では、「晩熟を心配するもの」が多い。
- 地域的には「早熟を心配するもの」が、市外地域に多い。
- 「早熟についての心配」は女子に多い。

次に、地域別にみると、会津地区の早熟への心配と、福島地区の晩熟への心配が目立つ。

図50 性について（地区別）

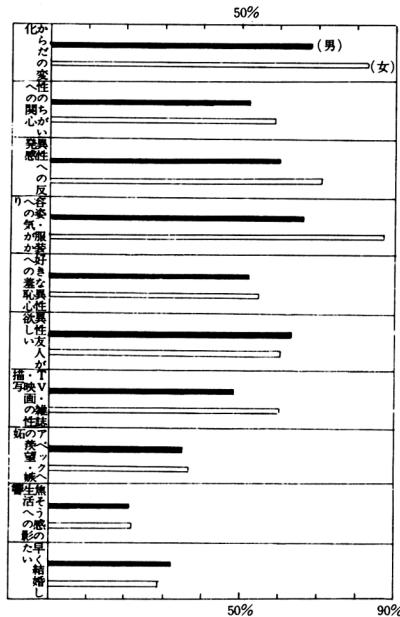


先に本センターでまとめた、子ども達の意識調査の中で、性について親に相談する割合をみると男子が約31パーセント、女子が約61パーセントと出ている。

女子は、初潮という現象から、はっきりとらえられる成熟の度合いが目立ち、親の意識も女子の方に向きやすいのだろう。

また、異性への関心度も約60パーセントと出ているのに対し、親達の90パーセント近くのもの「問題なしと表現していることが、かえって問題である」と考えられるし、「男子は性について正し

図51 小学生の性への関心（S48. 調査）

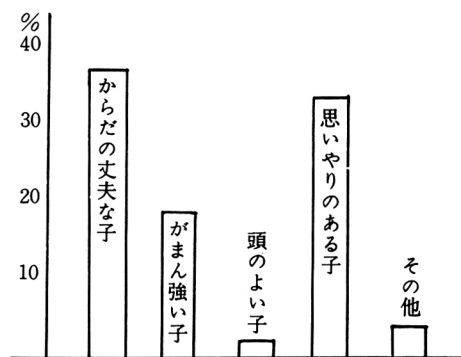


い情報を得る機会にめぐまれていないのではないか」という心配も残る。

(17) 家庭教育目標について

県全体では「からだのじょうぶな子」と「思いやりのある子」で80パーセント以上を占めていることが下の図52でわかる。「その他」では「4項目いずれも大切である」とするものがほとんどであ

図52



った。

「頭のよい子」を選択した保護者が2パーセント